

レアアース支援



発表する井上幹邦・稀有金属室長

経済産業省

2次公募、30事業採択

ジスプロ使用削減など

経済産業省は10日、レアアース・レアメタルの使用量を削減したり、それらを使った部品を代替する技術開発を支援するため、応募があった中から30事業を採択したと発表した。事業の採択は、今年2月に続き2回目。前回の支援分と合わせると、ジスプロシウム

の国内消費量を2年後までに現在の約半分の300トに減らせる効果が期待できるといふ。(9面に採択事業一覧表)

支援事業は中国政府が昨年5月からレアアースの生産・探掘管理を強化したことを受け、2011年度の第3次補正予算に盛り込まれた。レアアース・レアメタルを使用する部

素材メーカーによる使用量削減や代替技術の開発だけでなく、これらの部素材を使用して製品を製造するメーカーによる省・脱レアアースなどの取り組みにも支援を行う。一次公募を行った結果、今年2月に49件の事業採択を決めていた。

今回の2次公募は今年5月から6月にかけて実施。外部有識者による評価委員会で削減効果や実現までの迅速性、技術力などの面から審査した結果、60件の応募の中から30件を採択した。補助金申請額は約30億円となった。

日本軽金属の「アルミ製造材料からの有用金属採取可能性実証実験」や、三菱マテリアの「タンクステンおよびコバルトの使用量を低減する切削工具の開発と事業化」アサリ理研やマテリアル・トレイディング・カンパニーなどによる「ランタン及びガドリニウム精製の事業化に向けた実証実験」も選ばれた。採択した30件のうち17件はジスプロシウムに関する案件。ジスプロシウムは高温下で使うハイブリッド車やエアコンなどのモーター用磁石に耐熱性をもたせ

るために添加する主要材料だが、中国が産出量の9割以上を占める。経産省の試算によると、今回の採択案件を通じ、約2年後にはジスプロシウムの使用量を年間約100ト減らせるという。1次公募の分と合わせると約300トになり、日本のジスプロシウム使用量(約600ト)の半分に達する。